

陸連時報 三

2019
令和元年

11

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

第27回日・韓・中ジュニア交流競技会中国大会を終えて (全国高等学校体育連盟陸上競技部競技力向上委員長 大林和彦).....	198
第7回全国高等学校陸上競技選抜大会～サマーチャレンジカップ～ 報告 (強化委員会強化育成部 U20 コーディネーター 大橋祐二).....	200
インターハイにおける科学委員会研究活動報告(科学委員会委員 貴嶋孝太).....	202
JAAF公認コーチ養成講習会 専門科目講習会報告(指導者養成委員会 沼澤秀雄).....	204
JAAF U13指導者講習会報告(指導者養成委員会 君野貴弘).....	205
第26回JAAF コーチングクリニック 参加者募集.....	206
JAAF RunLink 特別対談.....	207
渋谷のラジオ Track Town Shibuya ドーハ2019世界陸上競技選手権大会パブリックビューイング・ 大会観戦ガイド.....	209 210
陸協NEWS.....	212
事務局からのお知らせ.....	214

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

第27回日・韓・中ジュニア交流競技会 中国大会を終えて

全国高等学校体育連盟陸上競技部 競技力向上委員長 大林和彦

令和元年8月22日から29日にかけて、中国・湖南省長沙市で第27回日・韓・中ジュニア交流競技会（11種目）が、日本選手団234名、韓国選手団212名、中国選手団236名、長沙市選手団226名の参加を得て、日本スポーツ協会・各競技団体の主催により開催された。

陸上競技については、沖縄県で行われた全国高校総体の上位選手から選考された男子11名、女子11名の日本を代表する選手達が集結し、スタッフ5名、トレーナー1名併せて28名の参加となった。会場は長沙市の長郡双語中学校の陸上競技場で、試合及び練習を行った。他国に大変配慮した使い勝手の良い競技場だったが、会場の出入口は空港並みのセキュリティーで厳しく制限され入場に時間を取った。宿舎は華雅国際大酒店に宿泊したが、宿舎も出入口はセキュリティーで制限され、非常に警備が厳しい国だと思った。選手は一部屋に2名で配宿され、日本のホテルと遜色はなく快適に過ごすことができたが、ホテルにランドリーがなく、選手たちは自分で手洗いの洗濯をした。食事については朝食、昼食、夕食

ともにバイキングで種類も豊富だったが、選手達は食事のバランスを考えサプリメント等を摂って日々飽きがこないような食事を摂取していた。また、天候は比較的落ち着いた7日間となったが、最高気温が37℃での競技会や練習となり、暑さとの戦いでもあった。

遠征での日程については、以下の通りである。

- 8月22日 日本選手団集合（前泊宿舎：品川プリンスホテル）
指導者ミーティング 結団式
- 8月23日 出発移動（羽田空港発→長沙空港着→華雅国際大酒店）
- 8月24日 練習（長郡双語中学校）・競技別指導者ミーティング・開会式
- 8月25日 大会1日目<第1戦>（長郡双語中学校）
- 8月26日 練習（長郡双語中学校）
- 8月27日 大会2日目<第2戦>（長郡双語中学校）
フレンドシップ交流・閉会式



- 8月28日 文化探訪（岳麓書院、橘子州、喜盈門范城）
- 8月29日 帰国（長沙空港発→羽田空港着）解団式
解散

本大会としては、第1戦の25日は朝6時30分からバスで競技場に移動し、8時30分からの競技の開始となり、非常に過密な日程の中での第1戦となった。トラック種目はすべて決勝のみで行われ、フィールド種目については6回の試技で行われた。大会では自分の種目が終了した選手が集まり声援をし、徐々にチームも打ち解けていき23種目中、金6個、銀9個、銅4個を取ることができた。また、27日に行われた第2戦では、中国に来て5日目となり少し慣れもあり余裕ができ、チームの雰囲気は大変良くなった。24種目中、金5個、銀14個、銅2個だった。第1戦目に比べて動きもよく記録も向上させることができた。その中でも2名の選手（男子円盤投げ：三井康平、男子110mH：村竹ラシッド）が自己記録を更新した。また、2試合を通じて地元中国の活躍が目立った。この大会での日本チームは全体的に体調面で疲れがある選手が多かったと思った。しかし、海外での試合で良いパフォーマンスを出せるような選手にならないと世界では通用しないことを選手達は学んだように思う。今

後に期待したい。

2戦目の夕方からは全競技団体のフレンドシップ交流・閉会式となり、各国の代表競技団体（2チーム）のスタunts等あり大いに盛り上がった。

この遠征は国際大会で言葉も通じず、日々の生活で不自由な所があったが、チーム一丸となってお互いが工夫し、困難な状況も乗り越え、良い雰囲気でも過ごすことができた。これも選手を日々指導されておられる指導者の皆様の教育活動のおかげによるものであり、スタッフ・トレーナーの皆様の気遣いもあったからだと思う。お礼とともに大変感謝申し上げます。出場した今回の選手の多くが今後オリンピック出場や日本陸上競技界を担うアスリートに成長してくれることを切に願っている。

最後に、この大会に際しまして、御協力、御尽力いただいた（公財）日本スポーツ協会、（公財）日本陸上競技連盟、（株）アシックスジャパン、（株）明治、各校選手指導者の皆様、スタッフの皆様に対しまして、心より感謝申し上げますとともに、今後ますます発展されることを祈念いたしましてお礼とさせていただきます。今後とも、宜しく願いいたします。



第7回全国高等学校陸上競技選抜大会～サマーチャレンジカップ～ 報告

強化委員会強化育成部 U20 コーディネーター 大橋 祐二

2019年8月31日から9月1日まで、ヤンマーワールド長居において第7回全国高等学校陸上競技選抜大会が開催された。本競技会が開設された当初の目的は、「インターハイでは実施されていないオリンピック種目（女子棒高跳、女子三段跳、女子ハンマー投）の普及・強化を図ること」であったが、2017年に上述の3種目がインターハイに組み込まれ、大会の目的を変更する必要があった。2016年にタレントトランスファーガイド、さらに2018年には競技者育成指針が策定されたこともあり、今大会の目的は「種目間トランスファーを考慮した参加標準記録を設定することによって、優秀な人材が専門外種目に挑戦する機会を提供すること、さらに専門種目に必要な能力を考慮した専門外種目での参加標準記録を設定することによって、競技者としての視野を広げシニアに繋がる普及・強化を図ること」となっている。

今大会では前回大会同様、男子10種目、女子12種目が実施された。前回大会は種目により参加者数に大きな差がみられたため、日本陸上競技連盟強化育成部で参加標準記録を再検討し、さらに参加標準記録を細分化することとなった（表1）。その結果、大会参加者数は大き

く増加し、特に女子棒高跳の参加者数が、前回大会0名から20名に増加した。また、本競技会の参加者数（延べ人数）の変遷をみると、年々増加し、特に今大会は急増している（図1）。このことは、本競技会の目的が多くの指導者に理解され始めていると読み取ることもできる。また、今大会には様々な仕掛けが施されていた。その一つは、U20/U18 日本陸上競技選手権大会へのシード権である。例えば、男女スプリントトライアスロンでは1位から8位までの選手に100m・200m・300m(U18)・400mいずれか1種目のシード権が与えられる。参加標準記録を突破していない選手が、専門外の種目へチャレンジすることで全国大会へ出場権を獲得できるという仕組みである。そこには、種目間トランスファーや早期専門化を防ぐ狙いも含まれている。

今大会では、男子4種目、女子4種目、計8種目で大会新記録が樹立された。その中でも、男子3000mでは前半からハイペースなレース展開となり、佐藤一世選手（八千代松陰）が8分08秒23で優勝し、上位9名が大会記録を上回る結果となった。また、スプリントトライアスロン（以下、ST）の出場者は、男子113名、女子

表1 参加標準記録と参加者数（2018-2019年）

種目	男子 参加標準記録			参加者数	
				2019	2018
スプリント トライアスロン	100m	10.75	いずれかの記録に到達した競技者	113	74
	200m	21.80			
	400m	48.50			
	走幅跳	7.05			
600m	400m	49.50	いずれかの記録に到達した競技者	70	43
	400mH	54.00			
3000m	800m	1.54.00	いずれかの記録に到達した競技者	22	22
	1500m	3.54.00			
110mMH	100m	10.90	いずれかの記録に到達した競技者	33	18
	走幅跳	6.95			
	200m	22.10			
300mH	400m	49.50	いずれかの記録に到達した競技者	68	52
	110mH	14.90			
	400mH	52.50			
	800m	1.56.00			
2000m障害	1500m	3.55.00	いずれかの記録に到達した競技者	23	16
	800m	2.03.00			
3000m競歩	1500m	4.10.00	いずれかの記録に到達した競技者	32	37
	5000m	15.20.00			
	走幅跳	7.10			
二段跳	三段跳	14.80	いずれかの記録に到達した競技者	28	17
	走高跳	2.00			
砲丸投	砲丸投(6.0kg)	15.00	いずれかの記録に到達した競技者	36	26
	円盤投(1.75kg)	40.00			
五種競技	24名を上限とし、十種競技(U20規格)に含まれる任意の3種目の合計2300点に到達した競技者			25	24

110名と前回大会を大きく上回るエントリーがあり、非常に盛況であった。男子STでは木村稜選手（乙訓）が、60m：6秒84（1022点）、150m：15秒97（1025点）、33秒41（1035点）、計3082点の大会新記録、女子STでは吉岡里奈選手（西京）が、60m：7秒58（1026点）、150m：18秒19（1012点）、38秒73（1025点）、計3063点と、男女とも全ての距離で高いパフォーマンスを發揮した選手の優勝となった。

大会1日目終了後、昨年に引き続きジョージア大学スロージョーイングコーチのDon Babbitt氏（2007年世界選手権男子砲丸投優勝のReese Hoffa選手や2005年世界選

手権男子砲丸投優勝のAdam Nelson選手のコーチ）による砲丸投の回転投法クリニックを実施した。昨年よりも具体的なトレーニング方法やドリルを実演・指導していただき、受講者の回転投法に対する理解も深まった様子であった。

今大会を実施するにあたり、特殊種目の資格審査や大会準備運営など、大阪陸上競技協会には多大なご協力をいただいた。本競技会がここまで認知されるようになったのも、大阪陸上競技協会の方々のご尽力があってこそ結果である。本誌面をもって心から感謝申し上げます。

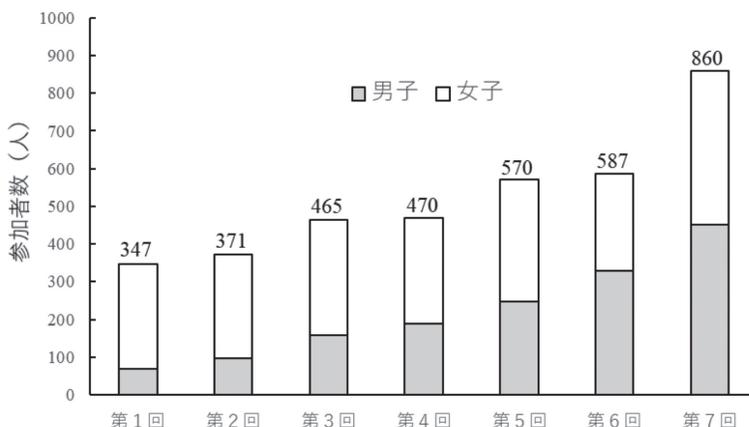


図1 参加者数の変遷

種目	女子 参加標準記録		参加者数	
	記録	記録	2019	2018
スプリント トライアスロン	100m	12.25	いずれかの記録に到達した競技者	110
	200m	25.05		
	400m	57.00		
	走幅跳	5.65		
600m	400m	57.30	いずれかの記録に到達した競技者	25
	400mH	63.00		
2000m	800m	2.14.00	いずれかの記録に到達した競技者	30
	1500m	4.30.00		
100mYH	100m	12.35	いずれかの記録に到達した競技者	34
	走幅跳	5.55		
300mH	200m	25.40	いずれかの記録に到達した競技者	26
	400m	57.30		
	100mH	14.10		
	400mH	60.50		
2000m障害	800m	2.16.00	いずれかの記録に到達した競技者	23
	1500m	4.36.00		
3000m競歩	800m	2.23.00	いずれかの記録に到達した競技者	26
	1500m	4.45.00		
	3000m	10.00.00		
四段跳	走幅跳	5.70	いずれかの記録に到達した競技者	36
	三段跳	12.10		
	走高跳	1.65		
棒高跳	棒高跳	3.00	棒高跳で3m00以上の記録を持ち、かつ、 100m・走幅跳いずれかの記録に到達した競技者	20
	100m	12.95		
	走幅跳	5.00		
	砲丸投	12.00		
砲丸投	砲丸投(4.0kg)	12.00	いずれかの記録に到達した競技者 (砲丸投の投法は問わない)	40
	円盤投(1.00kg)	36.00		
	ハンマー投	43.00		
ハンマー投	砲丸投(4.0kg)	11.00	ハンマー投で43m00以上の記録を持ち、 かつ、砲丸投・円盤投いずれかの 記録に到達した競技者	24
	円盤投(1.00kg)	33.00		
	四種競技	24名を上限とし、七種競技に含まれる 任意の3種目の合計2300点に到達した競技者		

インターハイにおける科学委員会研究活動報告

科学委員会委員 貴嶋孝太

1. 活動の概要

秩父宮賜杯 第72回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(南部九州総体2019)が2019年8月4日から8月8日までの間、沖縄県沖縄市のタピック県総合ひやごんスタジアムにて開催されました。今年も、全国11ブロックの地区予選会を勝ち抜いた高校生アスリートたちの熱戦が繰り広げられました。台風9号の影響で厳しいコンディションでの大会でしたが、日本高校記録新記録やU20日本新記録が誕生するなど、ハイレベルな大会でもありました。

科学委員会では、今大会に出場する高校生アスリートを対象として、①バイオメカニクスデータの収集・分析、②体調・食生活状況・スポーツ障害およびサプリメント摂取に関するアンケート調査を実施いたしました。このような科学委員会の研究活動は、1991年の第3回世界陸上東京大会におけるバイオメカニクス研究特別班の活動を機に進められ、主要競技会での国内外の選手のパフォーマンス分析が行われています。インターハイにおけるパフォーマンス分析は第46回大会(1993年、栃木)から、また②のアンケート調査は第57回大会(2004年、鳥根)から継続的に実施しております。これまで継続してこられたことに加え、活動の内容が充実したものになったのは今大会を含めこれまでお世話になりました主催者をはじめとする関係各所のご協力によるものです。

得られたデータは、科学的な研究活動に活用されるとともに、研究成果を広く周知し、陸上競技の普及・啓発や競技力の向上に役立つ知見を創出するために利用されています。例えば、日本陸上競技連盟のホームページ、陸上競技研究紀要、

陸上競技マガジン等で公表しております。加えて、2014年度からは全国各地で開催される高体連合宿における指導者研修会や、オリンピック育成競技者研修合宿における競技者への講義等において研修資料として利用されています。

高校生に代表されるジュニア期のアスリートを対象とした科学的データは、個人を縦断的に分析したり他の選手(シニア選手や日本・世界の一流選手)と比較・分析したりすることでその選手の特徴を知ることができます。さらにはパフォーマンス向上(または低下)の要因を探る手掛かりにもなりえると考えます。このような観点に立ち、高校生の現状を広く捉えることを考え、多くの選手の分析が行えるような準備をして活動を行いました。

2. 活動メンバー

本年度の活動は、以下に示す18名で実施しました。メンバーは以下の4班に分かれて活動を行いました。

〈短距離・ハードル〉◎貴嶋孝太、福田厚治、山元康平、

大沼勇人、大橋廉

〈中・長距離〉◎丹治史弥、中村康宏

〈跳躍〉◎清水悠、柴田篤志、大津卓也、松下翔一、植松倫理、朝津順平

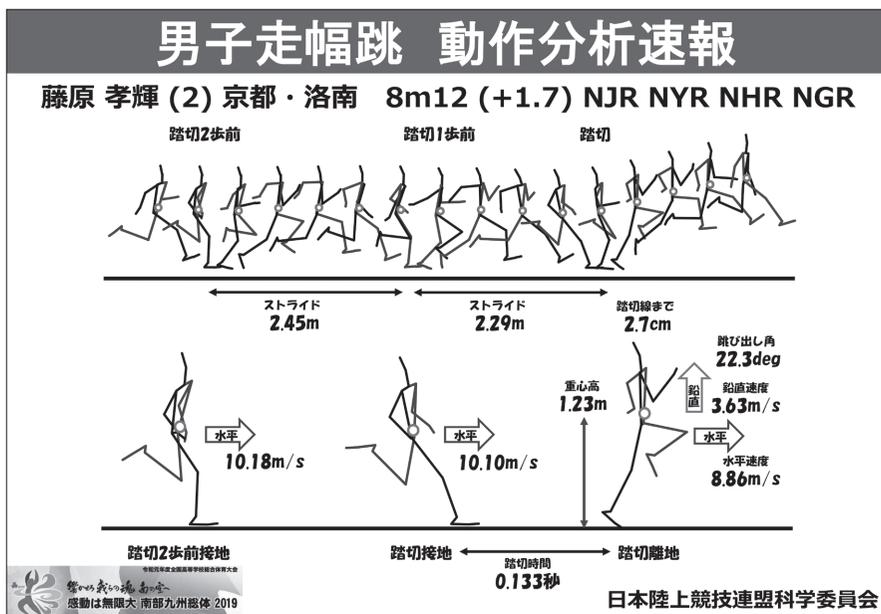
〈投てき〉◎高松潤二、村上雅俊、山本大輔、前田奎、

加藤藤彦

※順不同、敬称略。◎印は各班の主任。

活動班は、科学委員会の委員だけでなく分析担当スタッフの後進育成や、各地域との連携等を視野に入れ、委員以外にも編成されています。

図1



3. 活動内容

(1) バイオメカニクスデータ収集・分析とフィードバック

バイオメカニクスデータは、主にビデオカメラとレーザードップラー型速度測定器を用いて収集しました。ビデオカメラはレースパターンの分析や動作分析をするために、1台または複数台のカメラを使って撮影しました。使用するカメラは民生用のものですが、毎秒100コマ以上で撮影することが可能なハイスピードカメラを使用する種目もあります。それぞれの撮影や測定に必要なキャリブレーション（校正）作業は、競技の前後に行うことができました。この作業にあたっては、大会役員や審判、補助員の皆さまに大変ご協力いただきました。また、大会期間中は、活動メンバーの分析作業、休憩および機材の保管場所として、メインスタンド2階の会議室を使用させていただきました。ここは十分な作業環境（スペースや空調）が確保され、滞りなく作業をすることができました。インターハイでは、データの収集、分析、即時フィードバックの一連の活動を大会期間中に行うのが特徴ですが、図1,2にその一部を示します。図1は男子走幅跳で優勝(U20、U18日本新、日本高校新、大会新)した藤原孝輝選手の動作分析の結果です。そして、図2は女子100m決勝レースのタイム分析結果です。これら分析結果は種目ごとにフィードバック用の帳票としてまとめ、大会側に準備いただいた科学委員会用の掲示板に掲示しました。さらに、今大会では新たに2つの試みを行いました。

① QRコードを利用した動画配信（テスト公開）

決勝レースや優勝試技の動画を以下の手順でオンライン配信しました。私たちが撮影した動画を、オンラインストレージ（Google Drive）に保存し、動画URLのQRコードを取得します。そのQRコードを他の分析結果と同様、科学委員会

の掲示板に掲示しました。閲覧者は掲示されたQRコードを使ってアクセスし、自由に閲覧することができます。閲覧できる期限は大会終了後1週間としました。この動画配信は、近年スマートフォンやタブレット端末が普及し、動画での観察がより身近になったことに対応しようとしたものです。

② SNSを利用したフィードバック帳票配信

バイオメカニクス分析の速報データは、日本陸連の公式ツイッターで配信しました。配信する帳票は、会場内に掲示するものと同じものですが、より多くの人にデータを見ていただくことや、私たちの活動を知っていただく機会を作ることを目的としました。

(2) 体調・食生活状況・スポーツ障害およびサプリメント摂取に関する調査について

この調査では、各種目の入賞者・チームを対象に、質問紙による調査を行いました。質問事項は運動経験、体調・食生活状況、心身の状態、スポーツ障害、およびサプリメント摂取に関することです。また今回は、鉄剤に関する質問項目を新たに設けました。質問紙は表彰者招集所にて各種目の入賞者全員へ配布いたしました。回答いただいた内容は、科学委員会で集計し分析を行います。

4. さいごに

南部九州総体2019におけるバイオメカニクス研究データは、日本陸上競技連盟のホームページに掲載されダウンロードすることが可能です（日本陸連HPより、「日本陸連について」→「委員会情報」→「科学委員会」の順にクリック）のぜひご覧ください。

さいごに、大会期間中は猛暑のなか、私たち科学委員会の活動にご理解・ご協力くださいました全国高体連、沖縄県陸上競技協会をはじめ関係各所の皆さまに心よりお礼申し上げます。

図2

女子100m決勝 レース分析速報														
順位	選手名 (所属)	記録 (秒)	最高速度 (m/s)	距離 項目										
				10m	20m	30m	40m	50m	60m	70m	80m	90m	100m	
1	御家瀬 緑 (北海道・恵庭北)	11.51	9.84	タイム(秒)	2.03	3.19	4.25	5.28	6.29	7.31	8.34	9.38	10.43	11.51
				ラップ(秒)	2.03	1.16	1.06	1.03	1.02	1.02	1.03	1.04	1.06	1.08
				走速度(m/s)	4.92	8.66	9.43	9.74	9.84	9.83	9.74	9.62	9.46	9.29
				タイム(秒)	2.02	3.18	4.25	5.29	6.31	7.33	8.36	9.41	10.47	11.56
2	石堂 陽奈 (北海道・立命館慶祥)	11.56	9.79	タイム(秒)	2.02	3.17	4.25	5.29	6.31	7.33	8.36	9.41	10.47	11.56
				ラップ(秒)	2.02	1.17	1.07	1.03	1.02	1.02	1.03	1.05	1.06	1.09
				走速度(m/s)	4.96	8.58	9.36	9.68	9.79	9.78	9.69	9.56	9.39	9.19
				タイム(秒)	2.10	3.26	4.32	5.35	6.37	7.40	8.44	9.49	10.56	11.65
3	三浦 由奈 (宮城・柴田)	11.65	9.78	タイム(秒)	2.10	3.26	4.32	5.35	6.37	7.40	8.44	9.49	10.56	11.65
				ラップ(秒)	2.10	1.16	1.06	1.03	1.02	1.03	1.04	1.05	1.07	1.09
				走速度(m/s)	4.76	8.64	9.41	9.70	9.78	9.74	9.65	9.51	9.35	9.16
				タイム(秒)	2.02	3.19	4.26	5.31	6.34	7.38	8.43	9.50	10.58	11.69
4	景山 咲穂 (千葉・市立船橋)	11.69	9.66	タイム(秒)	2.02	3.17	4.26	5.31	6.34	7.38	8.43	9.50	10.58	11.69
				ラップ(秒)	2.02	1.17	1.08	1.04	1.03	1.04	1.05	1.06	1.09	1.11
				走速度(m/s)	4.96	8.54	9.28	9.58	9.66	9.64	9.54	9.39	9.21	9.01
				タイム(秒)	2.08	3.23	4.30	5.34	6.38	7.43	8.48	9.55	10.63	11.73
5	青山 華依 (大阪・大阪)	11.73	9.63	タイム(秒)	2.08	3.23	4.30	5.34	6.38	7.43	8.48	9.55	10.63	11.73
				ラップ(秒)	2.08	1.15	1.07	1.04	1.04	1.04	1.05	1.07	1.08	1.10
				走速度(m/s)	4.80	8.66	9.37	9.59	9.63	9.57	9.48	9.37	9.24	9.11
				タイム(秒)	2.05	3.24	4.33	5.38	6.42	7.46	8.51	9.58	10.67	11.78
6	井戸アビゲイル 風果 (愛知・至学館)	11.78	9.61	タイム(秒)	2.05	3.24	4.33	5.38	6.42	7.46	8.51	9.58	10.67	11.78
				ラップ(秒)	2.05	1.19	1.09	1.05	1.04	1.04	1.05	1.07	1.09	1.11
				走速度(m/s)	4.89	8.40	9.17	9.50	9.61	9.60	9.51	9.37	9.20	8.98
				タイム(秒)	2.12	3.29	4.36	5.40	6.44	7.48	8.53	9.60	10.68	11.79
7	鈴木 くるみ (北海道・旭川龍谷)	11.79	9.65	タイム(秒)	2.12	3.29	4.36	5.40	6.44	7.48	8.53	9.60	10.68	11.79
				ラップ(秒)	2.12	1.16	1.07	1.04	1.04	1.04	1.05	1.07	1.09	1.11
				走速度(m/s)	4.71	8.59	9.33	9.60	9.65	9.60	9.50	9.36	9.21	9.04
				タイム(秒)	2.08	3.26	4.35	5.40	6.45	7.49	8.55	9.62	10.71	11.82
8	鷲 麻那子 (東京・八王子東)	11.82	9.59	タイム(秒)	2.08	3.26	4.35	5.40	6.45	7.49	8.55	9.62	10.71	11.82
				ラップ(秒)	2.08	1.18	1.09	1.05	1.04	1.05	1.06	1.07	1.09	1.11
				走速度(m/s)	4.81	8.44	9.20	9.50	9.59	9.57	9.47	9.34	9.18	8.99
				タイム(秒)	2.01	3.19	4.27	5.30	6.32	7.33	8.35	9.38	10.43	11.50
準決勝	御家瀬 緑 《大会新記録》	11.50	9.89	タイム(秒)	2.01	3.19	4.27	5.30	6.32	7.33	8.35	9.38	10.43	11.50
				ラップ(秒)	2.01	1.19	1.08	1.03	1.02	1.01	1.02	1.03	1.05	1.07
				走速度(m/s)	4.99	8.43	9.27	9.67	9.85	9.89	9.84	9.71	9.53	9.32

(風速: -0.1m/s)



日本陸上競技連盟科学委員会

JAAF公認コーチ養成講習会 専門科目講習会報告

指導者養成委員会 沼澤秀雄

味の素ナショナルトレーニングセンターにおいてJAAFコーチ（公認コーチ）養成講習会を2019年8月24日～27日の日程で開催した。公認コーチ養成講習会の目的は、国内トップレベルの競技者の指導・育成・強化にあたる指導者を養成することである。昨年度から実業団の指導者30名を受け入れているため、今年度は今回と12月の2回開催とした。受講者は都道府県陸協で強化担当を務める小学校、中学、高校の教員、現役を引退したアスリート、民間の陸上競技クラブ、実業団所属の指導者など38名であった。

講習は基礎理論と実技に分けて行われ、主な基礎理論では日本陸連専務理事の尾縣貢氏から2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けた日本陸連の強化方針をベースに選手育成における指導者の必要性について、指導者養成委員会特別委員の繁田進氏より日本陸上競技連盟競技者育成指針について、医事委員会の山澤文裕委員長からは、アンチドーピングに関する最新情報について、鳥居俊氏より長距離選手の貧血に対する鉄剤注射の危険性についての講義があった。

グループワークでは秋元恵美指導者養成委員より、女子の有資格指導者が少ないという指摘がなされ、そのことに対する改善策についてグループディスカッションを行い、各グループがポスターを作成し発表した。

受講者は指導実習に先立ち、コーチングにおいて必要な、コーチ哲学およびスキルを講義によって学習し、その実践の場として指導実習を設けた。指導内容は、受講者の専門以外の種目について指導案を作成してもらい、それに沿って基本的な指導実践を行うというものである。指導実践の評価およびフィードバックは国際陸連レベルI講師の資格を持った講師陣によって行われた。



今回の受講者は長距離の指導者が多く慣れない種目の実技で体力的に厳しかったかもしれないが、積極的に取り組んでいただき、それぞれの種目指導についてのポイントを理解していただけたのではないかと思います。今後もコーチングスキルについて指導者同士が積極的に意見交換できる場を設けていきたい。

本連盟は日本スポーツ協会と連携を取りながら資格の位置づけや内容等を検討しており、公認ジュニアコーチも含めて出来るだけ多くの公認指導者を認定し、将来的には指導者資格の義務化を目指している。一方で資格取得者が資格を失効することがないように、資格更新の義務研修を充実させるとともに情報発信等の取り組みを行い、指導力向上の支援に努めていきたいと考えている。



実技は、2日間にわたって短距離、ハードル、競歩、跳躍、投てきと幅広く種目別指導が行われた。また、3日目は実技講習をもとに、種目別指導実習を実施した。

JAAF U13指導者講習会報告

指導者養成委員会 君野貴弘

文部科学省が定める小学校学習指導要領のなかで陸上競技（陸上運動）が位置づけられているが、陸上競技は種目も多く、またそれぞれに技術が異なり指導が難しいため、指導方法について悩んでいる例が多く見られる。U13指導者講習会は小学校で取り組む種目について基本的な指導方法を伝えることで、指導者の質の向上に寄与することを目的としている。今年8月、U13指導者講習会として、新潟（8/23）、東京（8/28）、沖縄（8/31）の3会場で実施したので下記報告する。

新潟会場は上越妙高の高田競技場で実施した。受講者は40名（男37名、女3名）で小学校教員、地域クラブの指導者、上越教育大学の学生たちが、走跳投の種目を半日の特別日程で行った。理論講習は田中悠士郎委員（指導者養成委員会）が行い、コーチングスキルと走跳投のテクニカルモデルの構築について講義を行った。実技は跳躍に君野貴弘（指導者養成委員会）、短距離・障害の2種目を田中委員が実施し、基本的な指導方法を行った。受講者は皆熱心に取り組んでくれたが、女性指導者が40名中3名と少なくともとも残念に感じた。

東京会場は葛飾区上千葉小学校で行ったが雨天のため体育館での実施となった。参加者は30名（男25名、女5名）の小学校教員で、走跳投の種目を冷房が効いた体育館で行った。午前中に繁田進委員（指導者養成委員会）がコーチングスキルとワークショップ（走跳投のテクニカルモデルの構築）を行った。ワークショップでは参加者が日頃の各種目の指導方法の悩みや指導時の疑問など

を2つのグループに分かれて、20分間話し合った。各グループで解決できなかった課題を沼澤秀雄副委員長（指導者養成委員会）、福島洋樹委員（同）がわかりやすく応えた。午後は走跳投の実技実践を行い、指導ポイントを動きながら各種目1時間ずつ行った。炎天下での実施ではなく、夏場の指導者講習会としては最高の環境で実施することができた。

沖縄会場は、城南市船越小学校の会議室とグラウンドで、40名（男34名、女6名）の小学校教員や地域クラブの指導者が参加し、走跳投の種目とコーチングスキルやワークショップの講義を実施した。午前中は繁田委員がコーチングスキルの講義とワークショップを行い、東京会場と同様に話し合いを実施し、課題解決できなかった部分については田代章委員（指導者養成委員会）・君野で応えた。午後は跳躍（走幅跳・走高跳）と投種目を2グループでローテーションし実技を行った。2グループを作ることでよりできるだけ細かくわかりやすく指導方法を学び、一人一人の動作や実技でのフィードバックが行いやすい形とした。

今後は、このU13指導者講習会を全国各地でより多く開催できるように充実させる計画である。各都道府県陸上競技協会または教育委員会にはこれらの講習会を積極的に活用していただき、一人でも多く、陸上競技の基本的な指導方法を理解し指導できる指導者を養成していきたい。



第26回JAAFコーチングクリニック 参加者募集

例年、指導者の皆様から大変好評をいただいております「JAAFコーチングクリニック」を下記の要項で開催致します。

第26回コーチングクリニックでは午前中に独立行政法人国立病院機構西別府病院の医師である『松田貴雄氏』に女性アスリートの三主徴を含む講義を行っていただきます。

午後には、一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 代表理事・千葉商科大学サービス創造学部 専任講師の『中村聡宏氏』にスポーツマンシップについての講義を行っていただいた後、コーディネーショントレーナー (Ph.D. / ライプツィヒ大学) の『泉原嘉郎氏』にコーディネーショントレーニングの実技を含む講義を行っていただきます。

例年女性指導者に限定したコーチングクリニックも実施しておりますが、本年度は本講習会のみで開催となります。全ての指導者の方々にとって、重要視される内容のプログラムとなっておりますので、皆さま奮ってご参加下さい。

詳 細

日 程：2019年12月28日(土) 9:50～16:00 (9:30受付 昼休憩1時間)

会 場：味の素ナショナルトレーニングセンター (NTC)

参 加 者：JAAF公認ジュニアコーチ (日本スポーツ協会公認陸上競技コーチ1・2)

JAAF公認コーチ (日本スポーツ協会公認陸上競技コーチ3・4)

中学・高校・大学・実業団の指導者

定 員：120名 (定員に達し次第締め切ります。)

講習会内容：9:50～10:00 開講式

10:00～11:30 「女性アスリートの三主徴を理解して

パフォーマンス向上につなげる」

12:30～14:00 「真のスポーツマンをめざして

—スポーツマンシップを理解し実践する意義を考える—」

14:15～15:45 「潜在力を高めるアスリートのための

コーディネーショントレーニング」

15:45～16:00 閉講式

以上3つのテーマでの講習会を予定しております。

参加費用：JAAF公認指導者資格有資格者 5,000円

それ以外の方 7,000円

申込方法：申込受付は陸連HPに掲載いたします。(申込開始は10月25日(金)～予定)

※お申込みはインターネットのみとなりますので予めご了承ください。

※「JAAFコーチングクリニック」は日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の「更新研修」として位置付けております。指導者資格をお持ちの方は積極的な受講をお願いいたします。

問合せ：日本陸上競技連盟 「コーチングクリニック係」

TEL：050-1746-8410 (平日 10:00～18:00)

担当：伊東・磯貝

Mail：coach@jaaf.or.jp

JAAF RunLink特別対談

日本にランニングカルチャーを根付かせることを目指して始動した「JAAF RunLink」。
チーフオフィサーの早野忠昭と各業界の専門家との対談を通じて、
ランニングの今後の姿を考えていきます。



早野忠昭

1958年生まれ。長崎県出身。一般財団法人東京マラソン財団事業担当局長・東京マラソンレースディレクター、日本陸上競技連盟総務企画委員、国際陸上競技連盟ロードランニングコミッション委員、スポーツ庁スポーツ審議会健康スポーツ部会委員、内閣府保険医療政策市民会議委員。1976年インターハイ男子800m全国高校チャンピオン。筑波大学体育専門学群卒業後、高校教諭、アシックスボウルダーマネージャー、ニシ・スポーツ常務取締役を歴任。



早野忠昭 × 茂木健一郎

1962年生まれ。東京都出身。理学博士。東京大学理学部、法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課修了。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て現在に至る。専門は脳科学、認知科学。

- 第1回 『走る』を文化として広めたい。『JAAF RunLink』誕生
- 第2回 2020のレガシーとして、誰もがスポーツを楽しめる環境を



早野忠昭 × 高橋みどり

テレビ朝日の情報番組でファッションライターとして活躍後、ジュン アシダ、メルローズの企画部販売促進を担当。1990年にはバーニーズ ニューヨークの日本進出にともない宣伝部ジェネラルマネージャーに就任。ジョルジオ アルマーニ ジャパン広報室長を経て2000年にエストネーションを設立。エグゼクティブオフィサーとして広告宣伝、PR、マーケティングの統括を担う。2005年6月に独立して株式会社Oensを設立後は代表兼、イメージングディレクターとしてPR、マーケティング、商品や店舗プロデュースに携わりつつ、原稿執筆、セミナー講師、テレビ出演などでも活躍。

- 第1回 楽しみ方は個々の自由それが JAAF RunLink のスタイル
- 第2回 ファッションもランニングも人を幸せにする？
- 第3回 身体だけではなく心の健康寿命も大切



早野忠昭 × 堀江貴文

1972年生まれ。福岡県出身。SNS media&consulting 株式会社ファウンダー。現在は宇宙ロケット開発や、スマホアプリ「TERIYAKI」「755」「マンガ新聞」のプロデュース、また予防医療普及協会としても活動するなど幅広く活躍。

- 第1回 運動、そしてランニングは時代に求められている
- 第2回 「ランニングで生活習慣改善」ー実現のために必須のこととは!?
- 第3回 ランニング×ビジネス、答えは「中毒性」



早野忠昭 × 和田正人

1979年8月25日、高知県出身。ワタナベエンターテインメントに所属し、同事務所の若手男性俳優D-BOYSのメンバーのひとり。現在は俳優業で活躍する。大学では陸上競技部に所属し、2002年の第78回箱根駅伝では復路9区を、区間記録第5位で走破した。当時のベストタイムは10000mが28分56秒00、ハーフマラソンが1時間2分57秒。大学卒業後はNECの実業団に入ったが、2年後に廃部となる。2004年7月に第1回D-BOYSオーディションに出場し、特別賞受賞により同年10月にD-BOYS加入。2005年「ミュージカル テニスの王子様」で本格的に俳優デビューし、最近では平瀬孝夫役でドラマ「陸王」にも出演した。

- 第1回 実業団から俳優業への大転身
- 第2回 箱根を走ったという価値それに向けた努力を認めてもらいたい
- 第3回 オリンピック効果だけでなくそれ以降も熱が冷めないために



早野忠昭 × 菅原小春

1992年生まれ、千葉県出身。幼少期から創作ダンスに励み、数々のコンテストで優勝。高校卒業後に渡米し、独自のダンススタイルを確立する。国内外の人気アーティストの振り付けや、ダンサーを務める傍ら、有名ブランドの広告、ラジオ、テレビ番組の出演など多方面で活躍。現在は日本を拠点に、世界各国でワークショップを開催。2019年NHK大河ドラマ「いだてん〜東京オリムピック噺（ばなし）〜」にてドラマ初出演。

- 第1回 Fusionの考え方でカジュアルなランニングを
- 第2回 ランニングとダンスにとっての聖地
- 第3回 人見絹枝を演じて触れた走ること、自分が演じる意味



早野忠昭 × HYDE

L'Arc-en-Ciel / VAMPSのヴォーカリスト。メジャーデビュー以降、多くのヒット曲を生み出す。2001年からソロ活動をスタートし、日本のみならずワールドワイドに活動している。ニューヨーク Madison Square Gardenや国立競技場などでのライブ実績もあり、日本において最も世界で活躍しているアーティストの一人。2019年5月に最新ソロアルバム「ANTI」をリリースし、積極的にライブ活動を展開中。

- 第1回 最初に走った記憶
- 第2回 ランニングは一石二鳥
- 第3回 HYDEさんがアメリカへ挑戦し続ける理由



RunLink オフィシャルウェブサイト



@RunLink
公式 twitter にて公開中



渋谷のラジオ「Track Town Shibuya」 ドーハ2019世界陸上競技選手権大会パブリックビューイング

開催地：渋谷Li-Po



ラグビー日本代表がワールドカップ優勝候補のアイルランド代表に劇的な勝利を取め、日本中が歓喜に湧くなか、陸上ファン50人が夜な夜な渋谷に集結した。渋谷のラジオの陸上競技専門番組「Track Town Shibuya」の企画として、世界陸上のパブリックビューイングが開催された。陸上ファンの中では世界陸上のパブリックビューイングは、2011年神戸アジア選手権以降、世界陸上、オリンピックに合わせて開催されている。ビール片手に「ニッポン」コールで応援する、サッカーでは当たり前の光景であるが、陸上競技においても応援のカルチャーが芽生えようとしている。今回も、みんなで日本代表ユニフォームに袖を通し50人の小さな会場が陸上日本代表のカラーであるサンライズレッド一色に染まっていた。

パブリックビューイングで注目をしたいのが応援のスタイルである。箱根駅伝や東京マラソンのような長距離種目では、ファンそれぞれに好きなチームや選手がおり、ただ声をかける人もいれば、沿道で写真を撮ったり、タイムを測ったり、観る視点も応援の仕方も人によって様々で、ある種個人戦である。ただ、世界陸上の場合、全員でチームJAPANを「オー・ニーッポン！」とサッカー日本代表の応援で聞き慣れた応援歌で、みんなで応援する団体戦だ。日本代表選手の中には正直、名前程度は知っているが、どんな選手なのか、そもそもその選手が行う種目はどんな魅力や難しさがあるのか、ましてや海外の選手は良く分からないこともある。自分の好きな選手を見つけて、その選手を応援するに至るには、なかなか難しいものがあるが、「日の丸を背負って世界で戦う」という共通点において感情が入るし、心から勝ってほしいと思う。その気持ちをまとめて「ニッポン」と応援できる機会から、徐々に個別の種目や選手のより深い魅力に入っていく。新たに陸上競技に興味をいだいた人がファンになっていただく最初の入り口として日本代表コンテンツの可能性を改めて感じた。

一方でパブリックビューイングの姿をSNS上で見ていた選手たちからの喜びの反応もあった。ドーハという完全アウェイの地で戦う選手たちを、日本からの声援で後押しする。観ている方も深夜0時に集合して明け方5:00までに応援するのは気持ち的に辛い。そのトランス状態と相まって選手とともに戦うという姿勢は、ただの陸上ファンではなく、立派なサポーターである。世界のトップレベルになると実力的には僅差であり、最後は気持ちの部分であると一般的に言われるが、だとすると、選手の戦う気持ちを後押しする「サポーターのチカラ」という今まで陸上界ではあまり考えられてこなかったチカラは侮れない。

日本中がラグビー一色に染まる中、ひっそりと集まったサンライズレッドの集団の輪を2020東京に向けて広げ、陸上競技のサポーター文化をみんなで育てていきたい。

※パブリックビューイングの様子はTwitter #世陸PV に掲載されております。

渋谷のラジオ「TrackTownShibuya」毎週金曜 13:00-14:00

メインパーソナリティ 横田真人

▼アーカイブ note公式ページ

<https://note.mu/shiburadi/m/m66cf842e833d/hashtag/514383>

TRACKTOWN
1121314151617181
SHIBUYA



大会観戦ガイド

第35回U20日本陸上競技選手権大会 第13回U18日本陸上競技選手権大会

U20・U18日本選手権を広島・広島広域公園陸上競技場で開催します！若きアスリート達の熱戦を是非、会場で！

▼日時：10月18日（金）～20日（日）

▼場所：広島広域公園エディオンスタジアム広島
広島市安佐南区大塚西五丁目1番1号

▼アクセス：

- ・アストラムライン広域公園前駅下車徒歩10分
- ・山陽自動車道（五日市I.C.から沼田方面）より3分

▼種目：

【ジュニアの部】

〈男子 14種目〉

100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、
走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、
ハンマー投、やり投

〈女子 14種目〉

100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、
走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、
ハンマー投、やり投

【ユースの部】

〈男子 15種目〉

100m、200m、300m、800m、110mH、300mH、
走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、
ハンマー投、やり投、4×100mリレー

〈女子 15種目〉

100m、200m、300m、800m、100mH、300mH、
走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、
ハンマー投、やり投、4×100mリレー

▼問い合わせ先：広島陸上競技協会

TEL：082-223-3256 FAX：082-222-6991

日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1373/>

第103回日本陸上競技選手権 リレー競技大会

リレー日本一を決定する日本選手権リレー！

今年は福岡・本城陸上競技場で開催！ぜひ足を運んで下さい！

▼日時：10月26日（土）～10月27日（日）

▼場所：本城陸上競技場

福岡県八幡西区御開4丁目16-1

▼アクセス：JR若松線「二島」駅下車徒歩約23分

市営バス30番二島駅行「本城陸上競技場前」下車徒歩約3分

【日本選手権リレー】

〈男子 2種目〉

4×100mリレー、4×400mリレー

〈女子 2種目〉

4×100mリレー、4×400mリレー

※特別種目として、U18男女混合4×400mリレー

▼問い合わせ先：日本陸上競技連盟

TEL：050-1746-8410 FAX：050-3588-1869



昨年度の大会より（U20男子円盤投を高校新で優勝した山下航生）



昨年度の大会より（女子4×400mリレーを制した立命館大）

▼日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1374/>

第41回北九州陸上カーニバル

日本グランプリシリーズ最終大会！年間のシリーズチャンピオンがついに決定!! 是非、ご注目ください！

▼日時：10月26日（土）～10月27日（日）

▼場所：北九州市立本城陸上競技場

福岡県北九州市八幡西区御開4丁目16-1

▼グランプリ種目

〈男子 5種目〉

走高跳、走幅跳、砲丸投、やり投、円盤投

〈女子 4種目〉

三段跳、砲丸投、やり投、円盤投

▼日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1390/>

▼グランプリシリーズWEBページ

<https://www.jaaf.or.jp/gp-series/>

第73回福岡国際マラソン選手権大会 兼 マラソングランドチャンピオンシップファイナルチャレンジ ～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～

男子マラソンのトップランナーが福岡に集結！
日本代表の座を巡って、白熱の戦いを展開します。日



昨年度の大会より（男子やり投優勝の石山歩）

本屈指の実力者たちが世界の強豪に挑みます。

▼日時：12月1日（日）12時10分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

福岡・平和台陸上競技場

▼アクセス：

・福岡市地下鉄「大濠公園」、「赤坂」駅 下車徒歩8分

・西鉄バス「大手門・平和台陸上競技場入口」バス停下
車徒歩5～8分

▼コース：福岡朝日国際マラソンコース（平和台陸上競
技場・大濠公園～福岡市西南部周回～香椎
折り返し）42.195km

▼参加標準記録：

【Aグループ】

フルマラソン 2時間27分以内

30km ロードレース 1時間35分以内

ハーフマラソン 1時間05分以内

【Bグループ】

フルマラソン 2時間35分以内

30km ロードレース 1時間45分以内

ハーフマラソン 1時間10分以内

▼問合せ先：福岡国際マラソン選手権大会事務局

（朝日新聞社西部企画事業チーム内）

TEL：092-411-1137

▼日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1375/>

大会公式サイト

<http://www.fukuoka-marathon.com/>



昨年度の大会より（優勝の服部勇馬）

JAAF
OKAYAMA

一般財団法人岡山陸上競技協会

〒700-0012 岡山市北区いづみ町2-1-11 岡山県陸上競技場内
TEL.086-214-3156 FAX.086-214-3156
http://www.tiki.ne.jp/~oka-rikkyou/

来年の東京オリンピックのマラソン日本代表選考会「マラソングランドチャンピオンシップ」(MGC)、参加選手の激闘は今も記憶に新しい。岡山県登録選手では女子の前田穂南選手(天満屋)が中盤で抜け出す快走で見事に代表内定を勝ち取った。

岡山県勢の女子マラソンは1992年のバルセロナで有森裕子さんが出場して以来2012年ロンドンまで6大会連続で代表選手を出してきた。そのうちシドニー以降の大会で天満屋勢の4選手が代表選手として晴れの舞台で力走した。前回の2016年リオデジャネイロで連続出場記録こそ逃したものの、今回の前田選手の活躍で再び県勢がオリンピック女子マラソンの舞台へ戻ってくることとなった。

さらに忘れてはならないのが、代表内定こそ手にできなかったが3位に入った小原怜選手の驚異的な追い上げだ。リオデジャネイロの代表がかかったレース、1秒差で逃した悔しさをぶつけたかのような終盤の粘り。結果は残念だったが代表入りの可能性を残した。

岡山県のスポーツ界は8月の全英女子オープンゴルフで渋野日向子選手(RSK山陽放送)が42年ぶりの女子メジャー大会制覇で大いに沸いたばかり。

前田選手や渋野選手といった若い力の活躍が岡山県のスポーツ界を大きく盛り上げている。東京オリンピック本番まであとわずか。一人でも多くの代表選手を岡山から…県民の一人として期待したい。

JAAF
HIROSHIMA

一般財団法人広島陸上競技協会

〒730-0011 広島市中区基町4-1 県立総合体育館
(公財) 広島県体育協会内
Tel.082-223-3256 FAX.082-222-6991
http://hiroshimaf.org/

スマホで「広島 ハードル」と検索すると 為末 大さんが一番に出てくる。広島が誇る侍ハードラーだ。2019年度上半期の広島のニュースといえば、ハードル選手は外せない。女子は、日本選手権優勝の木村文子選手(エディオン)、全日本実業団優勝の福部真子選手(日本建設工業)。男子は、日本記録を樹立した高山峻野選手。高山選手は、今季、大きな大会を走る度に、記録を更新。ナイトゲームイン福井でのゴール後、感情を爆発させた彼の姿が忘れられない。昨年10月に、彼の練習場面に残った機会があった中学時代の顧問、田川先生は、嫌なことも自分から進んでやろうとする彼の姿を見て、「昔と変わった」と感じた。自分の思いや目標をもつことで人は変わると感じたそう。高校時代の顧問、福地先生は、力任せで荒々しく果敢にハードルへ向かう姿が印象に残っているという。大学を経て実業団へ入り、動きが変わった。「未完成の美しさ」から「洗練された美しさ」へ。今後、「完成された美しさ」へと変化を遂げていく彼の成長が楽しみでたまらないと言う。

一人の選手の活躍の裏には、多くの支えがある。支えてきた者は、今までの彼らの努力を知っているからこそ、活躍する姿から、言葉にできない喜びや感動を味わえる。広島県の指導者たちは、将来を見据えワクワクしながら、これからも選手の育成に尽力していく。

(文責:企画広報委員長 藤原文代)

JAAF
YAMAGUCHI

一般財団法人山口陸上競技協会

〒753-0815 山口市維新公園4-4 維新百年記念公園陸上競技場内
Tel.083-920-6125 FAX.083-920-6125
http://yaaf.jp/

6月には任期満了に伴う新役員が承認され、令和元年からの新体制が決定し、新たな時代のスタートを切りましたのでお知らせいたします。

会 長: 二井 開成
副 会 長: 須田雅昭、園田隆、磯部芳規
専務理事: 山縣 人

他、常務理事7名、加入団体理事20名が承認されました。

さて、今回は、県内の公認競技場内、三つの施設をご紹介します。

一つは、岩国市に新しく完成した「愛宕スポーツコンプレックス(名称:55フィールド)」です。施設の名称は、錦帯橋の5連アーチの「5」と、前を向いて進むGo!の「5」を重ね、5(ゴー)5(ゴー)フィールドと名付けられました。日米共用の運動施設で、400m×8レーン、椅子席789席、芝生スタンド約900人が収容できる第4種の公認競技場です。

二つ目は、7月1日にリニューアルオープンした「下関市宮下関陸上競技場」です。新たに「ブルートラック」として生まれ変わった第2種の公認競技場で、公認陸上競技大会の開催や、市内の中学・高校生の練習拠点として活用しています。

三つ目は、「防府読売マラソン大会」の主会場となっている「防府市スポーツセンター陸上競技場」です。この施設も今年12月から大幅に改修を予定している第4種の公認競技場です。

これら三つの競技場と同じくこの度改選された役員も、新たな気持ちで本協会の運営に携わってまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。最後に、来年開催される東京オリンピック・パラリンピックは日本開催ということでこれまでにない盛り上がりを見せるとは思いますが、本県出身の選手にも本大会出場に向けて頑張ってもらいたいと思います。

(文責:総務委員長 山本博史)

JAAF
TOKUSHIMA

一般財団法人徳島陸上競技協会

〒770-0044 徳島市庄町5-27-4
Tel.088-635-6181 FAX.088-635-6181
http://www.jaafokushima.com/

徳島県高体連は2022年に本県で開催されるインターハイに向けて、準備を進めていますが、気持ちだけが先行し、なかなかうまくいっていないのが現状です。

本県高体連の登録人数は、全国でも下から1、2を争う少数で、学校登録数も30に届いていないのが現状です。そんな中で迎える2022年のインターハイですが、徳島県から一人でも多くの入賞者を輩出するために、県協強化部と協力し、様々な対策を行っております。

本県高体連は10年以上連続でインターハイ入賞者を輩出しており、指導者のレベルは向上し、そのノウハウを若い指導者に引き継いでいます。

このインターハイが徳島県高体連の発展と、小中学生への刺激となるよう、各校指導者が一丸となり地元徳島県より、一人でも多くの入賞者が出るよう努力していきたいと思っております。

全国の高校生が集うインターハイで、参加する全ての選手が良い思い出を作れるような環境を徳島県高体連が中心となり、徳島県協、そこに携わってくれる関係者で作っていきたくと考えています。

期間中、ご無理をお願いすることが多々あると思っておりますが、2022年度のインターハイを楽しみにしていただけたら幸いです。

インターハイ開催県が、今後の競技力の向上と競技人口の増加に繋がるような、そんな大会になるように、残りわずかな時間を精一杯努力していきたいと考えています。

陸協NEWS



JAAF
KAGAWA

一般財団法人香川陸上競技協会

〒763-0053 丸亀市金倉町830番地 香川県立丸亀競技場内
Tel.0877-21-5710 FAX.0877-35-9061
<http://gold.jaic.org/jaic/member/kagawa/index.htm>

香川陸上競技協会では、役員改選に伴い、都村忠弘会長が退任し詫間茂新会長が就任いたしました。都村前会長は、2000年に香川陸上競技協会会長に就任して以降、2003年全国スポレク祭、2005年全国日本実業団、2006年全中香川大会、2010年日本選手権、2014年全中香川大会や、毎年開催する香川丸亀国際ハーフマラソン大会などを成功に導くなど手腕を発揮されました。新任の詫間会長は、指導者としてリオオリンピックに出場した荻田大樹選手をはじめ、数多くの日本を代表する選手を育ててきました。また、競技スポーツとしての陸上競技以外にも、観音寺市議会議員として市民の健康増進やスポーツの普及に尽力されています。今後とも新体制になった香川陸上競技協会をよろしく願います。

今年度も多くの香川県の選手が様々な舞台で活躍をしました。日産スタジアムで行われた全国小学生陸上競技大会では入賞者5名、南九州インターハイでは入賞者3名という結果を残しました。また、本年9月に実施された全日本実業団対抗陸上競技選手権大会では、四電工に所属する木村和史選手が200mと400mで優勝を果たし、二冠を達成しました。

また、今年度は四国選手権が本県のPikaraスタジアムで開催され、四国四県対抗で熱い試合が繰り広げられました。この試合で活躍した選手の中には国体に参加する選手もいます。そのような選手を中心として、ひとりでも多くの香川県の選手がオリンピックを始め様々な国際舞台で活躍できるよう、尽力していきたいと思えます。

(文責：事務局長 高瀬裕介)

JAAF
FUKUOKA

一般財団法人福岡陸上競技協会

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビルB2F
Tel.092-474-0002 FAX.092-474-0002
<http://www.fukuriku.com/>

9月15日、東京2020のマラソン代表選手決定レースである、MGCが無事に終了し、ほどなく2名の選手が決定いたしました。

最後の一枠を選出する大会でもある、第73回福岡国際マラソン兼MGCファイナルチャレンジは、7月後半より諸準備を開始いたしました。

大会の運営に当たり、例年の流れとは違う点が日本記録を上回るペース設定となることです。

すでに関係機関との連絡会議を終え、協力体制を万全なものとしております。

本大会で日本記録が誕生しかつ、2020年オリンピック代表選手が決定される盛り上がる大会として運営していく所存です。

JAAF
KOCHI

(NPO) 高知陸上競技協会

〒781-0311 高知市春野町芳原2485 春野総合運動公園内
Tel.088-841-9940 FAX.088-841-9940
<http://npo-kochi.sports.coocan.jp/>

現在、高知県内には、全天候型の陸上競技場は県中央部の高知市内に2ヶ所、県西部の宿毛市に1ヶ所の計3ヶ所しかありませんでした。

本年7月に、県東部に初めてとなる県立青少年センターの陸上競技場がオープンしました。昨年までは土のトラックでフィールド内の芝生が剥がれた状態でしたが、改修後は、第3種公認陸上競技場として、8レーンの全天候型トラック、天然芝のフィールド、写真判定装置、本部席、会議室も備えています。

8月25日には地区の競技大会が開催されました。今までは、県内東部地域から1時間以上かけて高知市まで、大会等に出てこなければならなかった学校が、少しでも自宅に近い競技場で練習等が可能になることで、今後県下の陸上競技力向上に大きく寄与するものとなるはずです。

(文責：総務担当 島津 卓)



本年7月完成の
県立青少年セン
ター陸上競技場

事務局からのお知らせ

◆◆東京 2020オリンピック競技大会に向けた戦いが始まっています！◆◆

2020年7月31日～8月9日、日本（東京）で開催される東京2020オリンピック競技大会の残リ一枠の代表権をかけたマラソングランドチャンピオンシップファイナルチャレンジ（MGCファイナルチャレンジ）の選考競技会は下記の通りです。

是非、競技場・沿道で代表をかけた熱い戦いに応援をお願い致します。

〈男子マラソン〉

- ・第73回福岡国際マラソン選手権大会 2019年12月1日（日）開催
- ・東京マラソン2020 2020年3月1日（日）開催
- ・第75回びわ湖毎日マラソン大会 2020年3月8日（日）開催

〈女子マラソン〉

- ・第5回さいたま国際マラソン大会 2019年12月8日（日）開催
- ・第39回大阪国際女子マラソン大会 2020年1月26日（日）開催
- ・名古屋ウィメンズマラソン2020 2020年3月8日（日）開催



MGCで優勝を果たした中村匠吾選手（富士通／写真左）と前田穂南選手（天満屋）

◆◆ジュニアオリンピックの動画を公開します！◆◆

10月11日（金）から10月13日（日）まで、神奈川・等々力陸上競技場で開催する第50回ジュニアオリンピック陸上競技大会の動画を公開致します。激戦の様様をもう一度、お楽しみ下さい。

アクセスは <https://www.jaaf.or.jp/jro/50/> まで

注：アクセス先は昨年と異なりますのでご注意ください。



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩（陸連会長）
- 友永 義治（陸連副会長）
- 八木 雅夫（陸連副会長）
- 尾縣 貢（陸連専務理事）
- 麻場 一徳（陸連強化委員長）
- 風間 明（陸連事務局長）
- 牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869